



保護者向け

白石市国際交流支援協議会

目 次

1. 交流の概要について

- ①白石市の国際交流事業について 3
- ②オーストラリア・カウラ市について 3
- ③交流相手校について 4
- ④聖ラファエル校との交流内容について 4

2. 派遣・受入事業について

- ⑤白石市中学生派遣事業について 5
- ⑥聖ラファエル校受入事業について 9

3. 保護者からの声

- ⑦保護者から見た派遣・受入事業 12

4. その他

- ⑧よくあるご質問について 19

1 白石市の国際交流事業について

1994年(平成6年)から国際姉妹都市として交流をしてきた「オーストラリア・ハーストビル市」が2016年(平成28年)に隣接市と合併し、青少年の相互交流が継続できない状況となりました。そこで、当時国際交流コーディネーターとして本市の国際交流に尽力いただいていた方よりオーストラリア・カウラ市にある私立学校「聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校」を紹介いただき、青少年の交流を行っています。



2 オーストラリア・カウラ市について

- 位置 ニューサウスウェールズ州にあります。
シドニーから西へ約320kmに位置し、車で約5時間。
首都キャンベラからは車で約2時間。
- 人口 約1万人(※移民は人口のほんのわずか)
- 季節 南半球にあるため、日本の真逆。
中学生が訪問する時期は冬となります。
- 時差 日本より1時間進んでいます。
夏時間(サマータイム)期間は、日本と2時間の時差になります。



3 交流相手校について

白石市では、2017年(平成29年)からカウラ市にある「聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校」と交流を行っています。

聖ラファエル校はカトリック教の私立学校で、幼稚園児から高校3年生までが通う完全一貫校です。生徒数は、初等部(幼稚園～小学校)で300名程度、中・高等部で200名程度となっています。

学校の隣には礼拝堂があり、1年を通して特別な日には「ミサ(祭儀)」を行います。



4 聖ラファエル校との交流内容について

聖ラファエル校とは、2つの交流事業を行っています。

①白石市中学生派遣事業

毎年7月末から8月上旬にかけて、市内の中学2年生を対象にオーストラリアへ派遣を行っています。

②聖ラファエル校受入事業

2年に1回、聖ラファエル校の生徒や引率者を白石市で受入れています。



5 白石市中学生派遣事業について

(1) 事業趣旨

次世代を担う青少年をオーストラリアに派遣し、ホームステイや学校体験を通して、生きた英語に触れさせることで、英語学習の意欲向上を図る。また、異文化に接し、互いの文化・価値観・生活様式などを理解・尊重することで、グローバルな視点で世界を眺め、自国の良さを発見し、多様なものの見方や考え方、そして友情を育むことを趣旨とする。

(2) 派遣先

オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州カウラ

(3) 派遣期間

10日間（※年度により日数が前後することがあります。）

(4) 訪問団の構成

- ・生徒 市内中学2年生 8～10名程度
- ・引率 学校教職員 1名 市職員 1名

(5) 宿泊

- ・カウラ滞在 ホームステイ（5泊）
- ・シドニー滞在 シドニー市内ホテル（1泊）
- ・キャンベラ滞在 キャンベラ市内ホテル（1泊）
- ・その他 機内（2泊）

★ホストファミリーの割り当てについて

派遣生徒とホストファミリーの割り当ては、聖ラファエル校の先生へ一任しています。基本的には、同性同士の組み合わせになりますが、応募状況やホストファミリーの状況によりそうならない場合があります。その場合は、同性の姉妹/兄弟がいるファミリーを手配していますので、あらかじめご了承ください。

また、1つのホストファミリーに2名の生徒がお世話になる場合もあります。

(6) 派遣内容

①ホームステイ	聖ラファエル校に通う生徒の自宅でホームステイを行います。実際にオーストラリアの生活や食事、文化などに触れながらホストファミリーと交流を行います。
②学校体験	聖ラファエル校で体験入学を行います。ホストシスター/ブラザーと一緒に授業を受けたり、休憩時間を過ごしたりと、オーストラリアの学校生活に触れながら交流を行います。
③カウラ校での発表	聖ラファエル校の生徒に向けた発表を行います。発表内容は事前研修会にて派遣団員全員で話し合い、決定します。 (2023年は、全体発表として「クイズ」、班ごとの発表として「書道・折り紙・茶道」を行いました。)
④カウラ・シドニー・キャンベラ市内見学	カウラやシドニー、キャンベラ市内の建物や自然に触れ、歴史や文化について学びます。

(7) 事前研修会

派遣団員決定後、計5回の事前研修会を行います。研修会では、オーストラリア訪問中の実際にあるシーンを想定した「語学演習」やカウラ校での発表内容の準備・練習などを行います。

研修会は、各校英語科の先生をはじめ、白石市に勤務しているALTの先生に協力をしてもらいながら進めていきます。

	予 定 内 容
第1回	①英会話(テーマ:ホームステイ) ②各種あいさつの役割分担(決定) ③聖ラファエル校での出し物について ・全体発表/グループ発表の内容決定
第2回	①英会話(テーマ:学校体験) ②出し物(練習、準備物の確認)
第3回	①英会話(テーマ:私のまち) ②出し物(練習)
第4回	①英会話(テーマ:もしも・・・) ②出し物(練習)
第5回	①出し物(総リハーサル)



(8) 費用負担

①参加者負担金	100,000円/人 オーストラリアへの渡航費や活動費として、一人当たり約50万円～60万円程度の費用がかかります。 そのうちの一部を負担金として納めていただき、差額は市からの補助金でまかなわれます。
②パスポート申請手数料	11,000円(パスポート未取得の方)
③海外旅行傷害保険 (加入必須)	約10,000円～ 派遣期間の病気や怪我、盗難などのトラブルに対応した保険にご加入いただきます。詳細は、保護者説明会にてお伝えいたします。
④E T A S 申請手数料	1,700円～2,000円程度(※要クレジットカード) E T A S (Electronic Travel Authority System)とは、オーストラリアが採用している電子入国許可のことで、オーストラリア出発前までに各自必ず申請していただきます。

(9) その他

①常用薬について	<ul style="list-style-type: none">・医師から処方された常用薬を服用しているお子様については、医師からの処方証明書(英文)が必要となります。派遣決定後、該当される方へは個別に対応いたします。・市販の常用薬を持ち込む場合は、事務局から配付される常用薬リストを提出していただきます。(英訳は事務局にて行います。)
②携帯電話について	この事業は、派遣生徒の成長を促す学習の機会の場合として位置づけられており、派遣期間中の携帯電話の所持については、持ち込みをご遠慮いただいています。
③ペット・動物について	カウラでは、多くの家庭がペットまたは動物を飼っています。動物が苦手なお子様や動物アレルギーのあるお子様は、ホームステイすることが難しいと判断する場合があります。 ※ペット・動物の例：犬、猫、羊、鶏、牛、アルパカ、エミュー、アヒル、うさぎなど

(10) 派遣決定後にお願いすること

お 願 い 内 容	生徒	保護者
①派遣者説明会、結団式、出発式、解団式などへの参加	●	●
②事前研修会への参加	●	
③各種あいさつ ※結団式や解団式、聖ラファエル校での発表時など様々な場面であいさつを行います。役割分担は、事前研修会で話し合い、決定します。	●	
④事前研修外での準備や練習など	●	
⑤ホストファミリーへのお土産の準備 ※高価なものではなく、100均などで買える安価なもので構いません。(高価なものはホストファミリーが気を遣ってしまうため、お勧めしません。)	●	●
⑥派遣報告書の作成(感想文など)	●	

(11) 派遣生徒の心得

①この派遣事業は、学習の場として設けられている「研修」です。 観光旅行ではありません。代表として責任のある行動を取りましょう。
②市の代表として、何事にも積極的に取り組みましょう。
③ホストファミリーは善意で白石の生徒を受け入れています。 お客様ではなく「家族の一員」として、家事の手伝いなど積極的に参加しましょう。
④ホストファミリーの皆さんは、白石の生徒が英語を上手く話せないことを理解しています。 「伝えようとする気持ち」が1番大切です。身振り手振りでも意思表示をし、楽しく交流できるよう努めましょう。

6 聖ラファエル校受入事業について

(1) 事業趣旨

聖ラファエル校から生徒および教員の皆さまが来白することから、学校体験やホームステイなどの交流を通して、中学生が新しい価値観に遭遇し、国際社会への理解を深めること。さらに、海外への興味・関心を喚起し、自国と他国の文化や価値観などを比較し相対的に捉える視点や、異なる歴史背景を持つ人たちとの協調性と友情を育むことを趣旨とする。

(2) 来白予定人数

生徒 10名～12名程度 教員 2～5名程度

(3) 滞在期間

5泊6日(土・日を含む)

※聖ラファエル校は、春休み(9/28～10/13)を利用して来日します。

詳細な日程については、決まり次第お伝えいたします。

(4) 滞在形式

市内中学校へ通う生徒家庭へのホームステイ

※派遣事業に参加したご家庭には、原則として聖ラファエル校の生徒を受け入れていただくようお願いしております。

(5) 交流内容

①学校体験	学校体験を行う日は、聖ラファエル校の生徒と一緒に登下校をしていただきます。送迎などの特別な対応は必要なく、普段通りの登下校方法で問題ありません。
②ホームステイ (家庭での受入れ)	聖ラファエル校は、日本の普段の家庭生活を体験することを目的に来白します。 特別なおもてなしを行う必要はなく、普段の食事や生活習慣を一緒に過ごすことが重要となります。



(6) 食事について

ホストファミリー説明会(9月頃予定)の際に、受入生徒の好き(嫌い)な食べ物やアレルギーなどの基本情報をお渡しします。生徒によっては、食べられないもの(苦手なもの)が多い場合や普段から間食としておやつをたくさん食べている場合があります。

可能な限り事前に情報共有しますが、受入生徒との日常の会話の中で「食べたいもの」「食べられるもの」を確認しながら、ご準備ください。

(7) 寝床について

受入生徒の寝床については、個室やベッドを用意する必要はありません。お子様と同じ部屋で寝たり、リビングに布団を敷いて寝てもらったり、できる範囲で迎え入れていただければ問題ありません。布団で寝るという日本ならではの文化を知ってもらう機会にもなります。

(8) 金銭の負担について

基本的には、滞在中の食事や集合場所までの送迎にかかる費用、入場料などを負担していただきます。一方で、受入生徒の個人的な経費(本人がお土産として買う代金など)は、受入生徒本人の負担となります。

(9) 聖ラファエル校からお願いされていること

聖ラファエル校は、日本の普段の家庭・学校生活を学ぶことを目的に白石を訪問します。特別なおもてなしを行う必要はなく、普段の食事や生活習慣を通して日本の家庭を体験させてほしいとお願いされています。

また、白石を訪問する前(または後)には、日本各地の観光名所(東京・京都・広島など)を回ります。白石では、観光に捉われず家族との交流を深めることをお願いされています。

(10) ホストファミリーの皆さまにお願いすること

お 願 い 内 容	生徒	保護者
①ホストファミリー説明会への参加	●	●
②顔合わせ会への参加(予定)	●	●
③滞在中の食事の提供		●
④寝床の用意		●
⑤学校体験日の登下校	●	
⑥学校体験中のお世話役	●	
⑦放課後や休日の対応	●	●
⑧お別れ日のお見送り	●	▲*

※▲は、可能な限りのご対応をお願いしています。

(11) その他

ホストシスター/ブラザーは、ホームステイや学校体験など日常生活の中での世話役となります。ご家族の協力が必要ですが、生徒本人がお世話役を希望する気持ちが1番重要となります。

(12) 心得

①受入生徒は「お客様」ではありません。家族の一員としてお迎えしましょう。
②家事などお手伝いをお願いできることは、積極的にお願いをしましょう。
③ホームステイは、国際理解を深めるために「善意」「協力」「感謝」の心によって行われるボランティア活動です。 過度なおもてなしや金銭面で負担とならないように心がけましょう。
④堪能な英語力(英会話力)は必要ありません。 翻訳アプリやジェスチャーを積極的に使い、楽しく交流することを大切にしましょう。
⑤家庭内のルールをしっかりと説明し、お互いが気持ちよく生活できるように心がけましょう。 生活習慣は「違って当たり前」と考え、遠慮せずにルールや気持ちを伝えましょう。伝えることで受入生徒が日本文化や習慣を学ぶチャンスとなります。

7 派遣・受入事業に参加した保護者の感想

〈オーストラリア派遣事業に参加して〉

娘は、小学校の頃から英語や外国の文化に興味を持ち、外国に行ってみたいという気持ちを持っていました。白石市の事業でオーストラリアへの派遣があることは知っておりましたが、コロナ禍で中止しており、断念せざるをえないのかと思っていたところ、今年度から再開すると聞き、すぐに応募しようということになりました。何とか派遣メンバーに選出していただき、オーストラリアに行けることとなりました。

準備期間に入り、娘は数年前にオーストラリアに行った先輩のお話を聞いたり、放課後に市役所で研修を重ねたりしました。親もパスポート取得の手続きをしたり持ち物を準備したりとしなければならぬことはたくさんありました。娘は、薬を服用しているため、病院へ問い合わせをして薬の説明書を英語で作成していただくということも必要でした。また、一人で衣類の管理をさせたり、荷物の整理整頓やスーツケースの扱い方を練習させたりもしました。オーストラリアは、入国の際に持ち込むことができるものが細かく決められているため、何度も確認しました。

ここからは、ホームステイでの娘の様子についてです。娘は、ALTの先生と英語で話したり、一人で祖母の家に泊まったりする子なので、まあ大丈夫だろうと思っていました。ホームステイ先が決まってから、ホームステイ先のお母さんとメールのやり取りをしていましたし、心配することはありませんでした。しかし、実際にホームステイが始まってみると、娘はホームシックになり、あまり話すこともなく、ホストシスターのスマートフォンで翻訳機能を使っていたといいます。家の中でテレビを観ていた時間も長くあったようです。2日目にあちらのお母さんから電話で話したらどうかというメールが来たのですが、「娘が私の声を聞いてしまったらもっとホームシックになる」と思い、電話はせず、お母さんにお任せしました。3日目からは少しずつ落ち着いてきて楽しく過ごせたようで安心しました。

娘は、オーストラリアから帰ってきてから、たくさんの写真を見ながらあちらでの様子や出来事を説明してくれました。私の想像以上にたくさんの体験をさせていただいており、派遣事業に参加させていただいて本当に良かったと思いました。娘にとってたくさんの学びがあり、今後の英語学習への意欲も高まりました。

初めてのことで、親自身戸惑うことも多かったのですが、市役所の方々が全面的にサポートしてくださいましたし、私の些細な質問にも丁寧に答えていただきました。そして引率していただいた方がしっかりと子どもたちをみていてくださったので安心して参加することができました。白石市やこの事業を運営していただいた皆様、大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

〈オーストラリアへの白石市中学生派遣事業に参加させて〉

4年ぶりに派遣事業が再開され、娘は事前研修を重ね、オーストラリアに行くことをとても楽しみにしていました。親としては、初めて親元を離れ海外に行くことや、気管支喘息があるため体調を崩しはしないか、団員のみんなと協力し行動できるか、ホームステイ先などで英語が通じず、困りはしないかなど、心配なことが多くありました。

ホストファミリーとは、何度かメールで連絡を取り合いました。そして滞在中には、ホストファミリーと過ごす娘の写真を送ってもらい、元気に過ごしている様子が伝わってきました。温かく迎え入れてくれたことに感謝しています。

研修を終え、無事に帰ってきた娘を見て、安心しました。そして「もっと居たかった。」という言葉が頼もしく、研修が楽しく充実したものだだと確信し、参加させてよかったと心から思いました。

また、10月にはホームビジットという形でホストシスターを迎え、相互交流が出来たことは、よい経験になりました。ホストシスターとは、時々インスタグラムを通して、英語で近況を報告し合っています。

娘はこの研修を機に、苦手だった英語を頑張るようになりました。リスニング力がついたとも感じているようで、英検取得にも取り組んでいます。オーストラリアでの経験が生かされているように思います。

立志を迎える中学2年という時期に、このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

2023年度 派遣事業参加

〈派遣事業・受入事業を通して〉

ある日、娘が学校から帰宅すると、オーストラリア派遣の募集に申込みたいと言ってきました。いざ、派遣団に加えていただける事が決まってからは海外旅行の準備からホームステイ先での生活などいろいろな不安がありましたが、市の担当の方々から丁寧な説明があり、娘と共に楽しく準備を進めることができました。

しかし、やはりホームステイは大丈夫かなと心配でしたが、滞在中にはステイ先からも写真が送られてきたり、学校での様子は引率の方経由で知る事ができ、楽しんで生活しているようで安心しました。

受入れの方は、我が家では、休日は仕事の都合で遠出の観光等ができませんでしたが、ちょうど白石市民体育大会に地区で参加することになっていたのも、そこで一緒にラジオ体操やパン食い競争も体験してもらいました。

そして、その日の夜に行われた地区の反省会にも地区の方々に快く入れていただき、我が家で受け入れた生徒と仲の良い訪問団の生徒数名と共に参加してもらい、地区の方々も積極的に英単語と身振り手振りで会話をしたり、ボール遊びなどをして盛り上がっていました。

受入れは、我が家にとって非日常の出来事でしたが、毎日交流している間に気持ちも通じた感じで、白石を離れて行く姿を見送った際のさびしさは今も思い出されます。

派遣の準備から受け入れ終わりまであっという間に過ぎ、そして、おかげさまで何事もなく終える事ができました。

派遣から受け入れまでサポートしていただいた関係者の皆様に心から感謝いたします。

2023年度 派遣・受入事業参加

〈ホストファミリーとして受け入れを行って〉

私の家には、娘がオーストラリアでホームステイさせていただいたときのホストシスターを受け入れました。何度もメールでやりとりしていたこともあり、不安はありませんでした。受け入れの日にむけて、「何をして過ごすか」「何を食べさせたら良いか」、娘からホストシスターの好みを聞き、家族でたくさん話し合いました。宿泊は家ではなく、ホテルなので、ホテルへ送るまでの時間を有効に使うため、プランをたてました。

平日の2日間は、学校から帰ってきてからの時間が短く、休ませて夕飯を一緒に取ることがメインで、時間に余裕がありませんでした。学校で交流活動をしてくるため、疲れていて、おやつを食べてから少し昼寝をさせました。

休日の2日間は、ホテルに迎えに行ってからホテルに送るまで、白石のことや日本のことを知ってもらおうと考え、車で出かけました。

食事は、最後の日の昼食以外は家で取りました。娘がオーストラリアで食べさせていただいた食事を参考に、できるだけ色々なものを食べてもらえるよう考えました。ごはん、パン、お肉(牛、鶏)中心のおかず2品、みそ汁またはスープ、サラダ、などを準備し、もし食べられないときのために、冷凍のグラタン、パスタ、ピザなども用意しておきました。私の家に来た子は、あまり残さず何でも食べてくれたので、困ったことは特にありませんでした。娘に、オーストラリアの食事では、おかずは大きな皿に出して、トングなどを使って自分で小皿に取って食べることが多いと聞いたので、そのようにしました。

受け入れた我が家族の様子ですが、最初は緊張のためか、あまり自分から話すことはありませんでしたが、一緒にいる時間が長くなるにつれ、何とか英語で話そうとするようになり、最後の日は車の中でも家の中でも英語で会話するようになっていました。自分の英語が通じたという喜びを感じ、もっと英語や他の文化を知りたいと思うようになりました。

考えを尽くして受け入れをしたつもりでしたが、後になってあれも食べさせなかった、もっとこうすればよかった、という気持ちがどんどんわいてきました。

オーストラリアに帰ってから、週に2~3回メッセージのやり取りをしています。またいつか再会できる日を楽しみに、これからも、この縁を大切にしていきたいと思います。

このような貴重な機会をいただき、感謝いたします。

2023年度 受入事業参加

〈聖ラファエル校生徒受入事業の感想〉

今回のホームビジットファミリーに申し込んだ理由は、子どもに英語に興味を持ってもらいたかったからです。日頃から思っていたので、中学校の先生から声を掛けていただいて有り難かったです。ホームステイだと、家の広さから抵抗がありましたが、ビジットだったため受け入れやすかったです。

受け入れる前は、せっかく日本に来てくれるのだからと思い、何をしたら良いのか悩みましたが、いつも通りの生活しかできませんでした。でも、そうしたことで、白石の良いところを見直すことができました。碧水園の茶室や能楽堂、日本庭園を見学に行きました。(能のお面を特別に触らせていただけたのですが、ちょうど受け入れた生徒が今回の旅の途中で家族へのお土産で選んだお面と同じもので、良かったと思いました。)また、白石城の裏にある広い公園でサッカーや飛行機を飛ばして遊び、和やかな時間を過ごすことができました。

我が家には、高校1年生の男の子が来てくれましたが、息子と好きなものが似ていてよかったです。息子は「テレビゲームは日本が世界に誇るものだ」と言って、ここぞとばかりにゲームに誘って仲良く遊んでいました。他にも、折り紙で手裏剣を作ったり、木刀を音楽に合わせて振り回したりして、遊んでいました。

食事は、肉が好きと聞いたので、いつも作っている唐揚げやハンバーグ、茹で野菜やポテトでした。最終日は、ケンタッキーフライドチキンを買ってきて、日本のKFCを食べてもらいました。とても喜んでいました。

その後の交流は、InstagramやLINEを交換して、連絡しています。

息子はホームビジットファミリーを経験したことで、何事にも積極的に行動するようになり、もっと英語を上達させたいと英検にも挑戦しています。親としても、息子が初対面の外国の学生に対して、友好的に接する姿を見ることができ、大変嬉しく、頼もしく感じています。

このような貴重な機会を作ってください、ありがとうございました。

2023年度 受入事業参加

〈オーストラリアの生徒受入における感想〉

コロナでオーストラリアへの派遣事業に参加できなかったのも、せめて受け入れは子ども達に経験させたいと親の私は考えておりました。

しかし、息子は受験生ですので、あまり乗り気ではありませんでした。塾に通っていたため、日程調整が難しいと感じていたようです。そのため、家族みんなでどうしたら負担なく、楽しんで過ごせるかを話し合いました。息子が関われない時間帯は兄(高校2年生)が協力を快く引き受け、父親、祖母、私の実家の母にも協力をお願いして、まず息子を安心させてから受け入れの申し込みをしました。

事前に私たち家族の紹介文を提出して、それに合致した生徒さんのプロフィールをいただき、何をしてもてなしたら喜ぶか考えることができました。ムエタイをやっている、日本の文化に積極的に触れたいという生徒さんだったので、私たち家族でやっている柔道や食べたいものを聞いて作って食べるということをプランしました。

実際受け入れて交流をしてみて、息子は「言葉は違っても柔道を通し、心が通い合う体験ができてビックリした。武道やスポーツを通じて言葉の壁は越えられるし、仲良くなれる。だからオリンピックは平和の祭典なんだね。」と話していました。また、柔道家の祖父も張り切って指導してくれ、生徒さんの柔道センスに感動していました。父親は写真係になって、動画撮影してくれ、家族みんなで協力し合えたことも我が家にとって有り難いことでした。

受け入れる前はドキドキして英語が通じないのではないかと不安になっていたのがウソのようで、生徒さんにガンガンちぐはぐな英語で話しかけ、楽しい時間を過ごすことができ、受入事業に参加して本当に良かったと感じました。

自分のことをあまり語らない生徒さんでしたが、小十郎まつりの後、他のホストファミリーと一緒に交流させてもらったので、生徒同士でおしゃべりでき、彼らもホッとした様子でした。できれば他のホストファミリーが誰か早めに判れば、お互い協力して、煮詰まってしまう時間を解消できると思いました。

最終日に私の実家の母と協力してピザパーティーをしたのですが、生徒さん自身で作ったことが無いということでしたので、最初から最後まで自分でピザを作って外のテラスで食べたのも良い体験になったと思います。やったことないことを見いだして、それを実現することは互いにとって素敵な経験になると思います。

現在携帯を持っている高校生の兄と Instagram を通じて生徒さんと交流しています。生徒さんの帰国後、息子の贈った柔道着が彼のお部屋に飾ってある写真が送られてきました。今後も子ども達が繋がってくれていたら良いと思います。

初めての経験をした不安だらけの息子でしたが、仙台駅で切符を買うのに迷っていた外国人の方に買い方を尋ねられて教えてあげたり、新幹線の車内で気軽に話しかけられておしゃべりしたりできるようになったそうです。兄も外国の方に積極的に話しかけ、コミュニケーションを楽しんでおります。二人とも、海外留学や仕事で海外に行く夢を語っています。

〈心の糧となる経験〉

「ホームビジットの受入れがしたい！」

英語が好きな娘の一言で始まった、今回のホームビジット受入れ。我が家には英語を話せる人はおらず、娘も中二相応の英語力だったので、受入れをしてもコミュニケーションがとれず、せっかくオーストラリアからホームビジットに来るのに迷惑をかけるのではないかと不安でした。

しかし、「こんな機会はない、もっとスキルアップがしたい！」と娘の強い希望もあり、参加を決めました。

実際受入れをしてみて、娘が一生懸命にリードして楽しませようと努力している姿を間近で見る事ができました。ホームビジット中は買い物をしたり、遊園地で一緒にアトラクションに乗ったり、短い期間の中でたくさんの思い出を作る事ができました。

英語が話せなくても、十分にコミュニケーションをとる事ができましたし、何より今後の人生にとって大きな糧となった経験ができたのではないかと思います。別れ際は、お互いに必ずまた会おうと約束を交わしていました。帰国後もメッセージのやりとりを続けていて、クリスマスにはオーストラリアからプレゼントが贈られてきました。二年後には弟を受け入れてほしいとお母様からもメッセージをいただき、家族ぐるみで交流を深めています。

言葉が通じなくても、お互いの気持ちが通じ合えば言葉以上に理解し合えるのだと実感しました。娘にとっても、家族にとっても素晴らしい経験でした。

2023年度 受入事業参加

8 よくあるご質問について

Q. 英語を話せないけど大丈夫ですか？

A. 聖ラファエル校の生徒や教員は、私たちがうまく英語を話せないことを理解しています。また、気持ちを通わせること(心の交流)の大切さを深く理解しています。

これまでの参加者の多くは、ジェスチャーや知っている単語、翻訳アプリを使うなどして、交流を深めていました。

「いただきます」や「ごちそうさまでした」「おはようございます」など、簡単な日本語を教えることもとても良い交流になります。

Q. どんな食事を出せば良いですか？

A. 多くの生徒は、2つのタイプに分類できます。

①なんでも挑戦する積極タイプ

日本料理やこれまで食べたことのない料理に対して積極的に挑戦するタイプ

②普段食べているものを好む安定タイプ

普段、オーストラリアで食べているものを好み、初めて食べるものに対して抵抗を持つタイプ

どちらのタイプでも、まずは食べたいもの・食べられるものを聞いてみるのが大切です。

5日間という短期間のホームステイですので、日本料理にこだわらず、食べられるものを提供し、楽しく過ごせる環境づくりをしてみましょう。

Q. 部屋が狭いけど大丈夫ですか？

A. 全く問題ありません。

日本の家屋は、オーストラリアの家屋と比べると小さいことを理解しています。大切なことは、聖ラファエル校の生徒にとって、「居心地の良い空間であること」ですので、ウェルカムボードを作ったり、家族紹介のイラストや寄せ書きを書いたり、心温まる雰囲気づくりを試みるのも良いかもしれません。

Q. お風呂について、気を付けることはありますか？

A. お風呂は、最もカルチャーショックを受けるようです。
まずは、日本のお風呂の習慣について説明し、本人の希望を聞いてみましょう。
これまでには、温泉に連れて行った家族もあり、喜んでいた生徒もいたようです。
抵抗のある生徒へは、無理強いせずにシャワーだけでも問題ありません。

Q. 自由時間はどんな風に過ごしたらいいですか？

A. 〈屋内プラン〉

- ・料理を一緒に作る、家事を手伝ってもらう。
- ・親戚、友人、地域の方を誘って交流をする。
- ・ゲーム、トランプ、あっち向いてほいなどで遊ぶ。
- ・楽器の演奏、折り紙、趣味で楽しむ。
- ・昼寝をする。(慣れない環境で疲れている生徒も多くいます。)

〈屋外プラン〉

- ・まつりや地域活動への参加。
- ・スポーツ(怪我には十分に注意し、負担のない範囲で)
- ・近場へのお出かけ(神社、お寺、スーパー、武道場など)
- ・他のホストファミリーと集まってバーベキューなど、一緒に食事や行動をする。

事業参加をご検討中の保護者の皆さまへ

この資料は、聖ラファエル校との交流事業へご参加を検討されている保護者の方向けに作成した資料です。

応募するにも、「交流事業がどんなものか分からない」「どんなことをするのか不安」といった事情で、申込みをするか悩んでいる方がこの資料を読んで「申し込んでみよう！」と一歩を踏み出す勇気を与えられる資料になれば、という思いを込めて作成しました。

言葉や文化、生活習慣が違う外国人を受け入れることは決して簡単なことではなく、保護者の方が一番不安を感じられるものと承知しております。

国際交流は、参加されたお子様のみならず、保護者の方、ご兄弟、地域住民など様々な方にとって、これまで知らなかった文化の多様性について外国人を介して知る機会となります。また、相手の文化を尊重し理解することによって、他者との違いに対する寛容さを身につけることができ、このような小さな交流は子どもの将来の大きな礎となり、平和をもたらすことにもつながると考えます。

地域社会全体で目標を共有し、未来を担う子どもたちの成長を支える、この国際交流をぜひご家族で体験していただければ幸いです。

白石市国際交流支援協議会事務局

発行：2024年3月

作成：白石市国際交流支援協議会事務局
(白石市まちづくり推進課内)